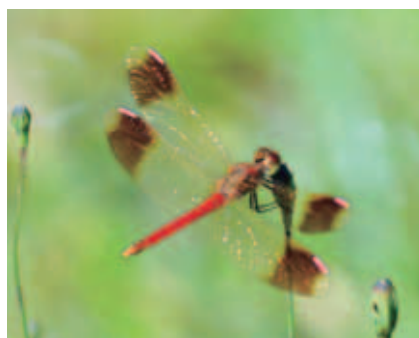




羽に茶色の帯 ーミヤマアカネー

秋が深まると、陶史の森に赤トンボが飛び交うようになります。

「赤トンボ」は、体が赤いトンボの総称です。鮮やかな夕焼け色のトンボの多くは、「〇〇アカネ」という名前がついています。写真のトンボは、「ミヤマアカネ」という赤トンボです。

ミヤマ（深山）は山奥を、アカネ（茜）は夕焼け色を意味します。大きさは、3〜4 cmぐらい。夏の間は黄色い胴体していますが、秋になるとオスは真っ赤に、メスは

薄い赤茶色に変わります。また、羽は先端が透明で、茶色の帯があります。帯の前に縁紋（四角形の色の濃い部分）があり、オスは蛍光ピンク色を、メスは蛍光ミルク色をしていて、とても鮮やかです。

日本で最も美しい赤トンボの一つともいわれるミヤマアカネは、警戒心が強く、一度飛び立つと遠くまで飛んでいってしまいます。陶史の森で出会うことができればラッキーです。ぜひ、その美しい姿を見つけて、秋の訪れを感じてください。

陶史の森からのご案内

バードウォッチング（自由参加）

9月28日（日）、10月26日（日）

午前9時〜11時

きのご教室（要申込：定員10人）

10月19日（日）午前9時〜11時

陶史の森まつり

10月11日（土）午前9時〜正午

※雨天順延 10月12日（日）

トキハク
プロジェクト

新博物館準備だより

学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歴史館
(☎55-1245)

第17回 土岐市主催の公募展のあゆみ

休館中の当館では、美濃焼伝統産業会館の展示室で、年2回の館外展示を開催しています。展示は収蔵品を公開活用するとともに、新しい博物館の常設展示室で扱うさまざまなテーマを紹介する機会でもあります。

現在開催中の展示では、「土岐市が育んだ芸術―大陶都誕生からのあゆみ―」と題し、市がこれまで主催してきた公募展のあゆみを紹介しています。

昭和30年、8町村の合併により誕生した土岐市は、各町村の美濃焼の生産力が合わさり「大陶都誕生」と沸き立ちました。美濃焼産地としての勢いが加速する一方で、芸術的側面でも産地ならではの取り組みをスタートさせます。昭和61年以降、「日本現代陶彫展」「織部の心作陶展」「日本ユーマア陶彫展」「現代茶陶展」といった公募展を開催し、多様な作り手たちの挑戦の場となってきました。なかでも現代茶陶展は、現在も続く全国公募展として、広くその門を開いています。

今回の展示では、これまでの受賞作を展示するとともに、作り手たちが市の公募展で残した足跡をたどります。また、10月11日の午後2時から、学芸員による展示解説を行います。気軽に立ち寄りください。



展示の詳細は2次元コードからご確認ください。



第1回現代茶陶展審査風景（平成7年）▶

審査員：左から乾由明、樂吉左衛門、鯉江良二、清水卯一

